

学校関係者評価 報告書

対象期間:2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

学校法人:早稲田大学

早稲田大学芸術学校

目 次

1. 評価実施の概要	3
2. 評価結果	4
1. 学校の教育理念(AA Idea)	4
2. 学校評価の基本方針	4
3. 学校の重点目標	4
4. 評価項目	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	5
(2) 学校運営	6
(3) 教育活動	
① 目標の設定等	7
② 教育方法・評価等	8
③ 資格試験	9
④ 教職員	9
(4) 学修成果	11
(5) 学生支援	12
(6) 教育環境	13
(7) 学生の受入れ募集	14

(8) 法令等の遵守	1 5
(9) 社会貢献・地域貢献	1 6
(1 0) コロナ禍への対応	1 7
5.総 評	1 8

2023 年度 早稲田大学芸術学校 学校関係者評価報告書

1. 評価実施の概要

評価目的：「早稲田大学芸術学校 2023 年度 自己評価報告書」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：2024 年 5 月 17 日

学校関係者評価委員：

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会 委員長
関係業界	建築家、 前橋工科大学 神奈川大学工学研究所	名誉教授 客員教授	石田 敏明	本委員会 副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店	稲芽会 副理事長	田中 茂	

(敬称略)

評価の方法

本校自己評価委員会において承認された「2023 年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに 1（不適切） 2（やや不適切） 3（ほぼ適切） 4（適切）の評価判定を受けた。各委員の評価の平均値（小数点以下第 2 位を四捨五入）を最終評価とし、また記述意見がある場合は項目ごとに取りまとめた。（記述意見がない項目については項目見出しのみ記載）

2. 評価結果

1. 学校の教育理念 (AA Idea)

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・高い理念になっている。
- ・夜間開講であり、社会人の再教育も行うことができる専門学校として、とてもユニークで特色のある学校と評価できる。

2. 学校評価の基本方針

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・数値的な項目は変化がわかるようグラフ化し掲載できればなおよい。

3. 学校の重点目標

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・広報・学生募集活動の効果が現れている。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目的・人材育成像

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は何か	4.0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか	3.7
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「学校の理念・目的・育成像は定められているか」

・講師陣の配置が学修のモチベーションに繋がっている。

●「学校における職業教育の特色は何か」

・文理融合型の特徴が表れているカリキュラムである。昨今、建築業界が文理融合型にシフトする傾向にあるため、業界ニーズに合っていると評価できる。

・夜間であることで多様な講師を招き、幅広い教育が可能になっている。

●「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」

・「Waseda Vision 150」と連携した将来構想は十分に評価できる。

・大学の150周年構想と合わせ昨今のリスクリングに対して主体的なヴィジョンをアピールできればよい。

●「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか」

・今後もHPを通じて発信を期待している。

・紀要AARRはもう少し積極的に公開・配布をしてはどうか。また、英語ページでの情報充実ができるとうい。

●「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」

・業界ニーズよりも学生の想いに応える方向と理解しており、それでよいと思う。

(2) 学校運営

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4.0
人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4.0
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4.0
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.0

■委員からの評価・意見

- 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」
- 「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」
- 「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか」
- 「人事、給与に関する規程等は整備されているか」
- 「教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか」

- 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」
- 「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」
 - ・日々の情報公開はSNSを通じてできていると感じるが、過去の履歴も検索できるような体制にできればさらに望ましい。
- 「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」
 - ・本件の評価入力フォームに見られるように、特定のソフトウェア依存の業務は効率を下げる。テキストベースのデータベース化を期待する。
 - ・自動化・DX化のメリットが学生にも波及するような施策を期待する。

(3) 教育活動

①目標の設定等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」
- 「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか」
 - ・学習時間の確保は芸術学校だけでなく学生の努力も必要であり、学校側は十分に対応していると考えるが、学生に向けてタイムマネジメントを促すような指導があるとなおよい。
 - ・夜間という制約の中、可能な限りの対応をしている。

②教育方法・評価等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」
- 「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」
 - ・教育方針に沿った工夫・開発ができています。
- 「関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」
 - ・実務を担っている方を中心とした教員陣から適切にカリキュラムの作成・見直しができている。
- 「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」
 - ・実物大 5m キューブや構造模型実験等を通じて実技・実習等が体系的に位置づけられている。
- 「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」
- 「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」

③資格試験

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.7

■委員からの評価・意見

- ・建築士の受験要件が変わったことに対して、学生からの要望にある程度対応できるよう希望する。
- ・建築士の資格取得に関する教育だけではない、「知識を表現にどのように向けていくか」といった「建築家」教育に重点を置いていることは評価できる。

④教職員

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4.0
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4.0
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4.0
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」

- ・実務を担っている方を中心とした教員陣から要件に合った教育・授業が行われている。
- 「関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」
 - ・実務を担っている方を中心とした教員陣から業界の動向等と連携のとれている教員が担われている。
- 「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」
 - ・実務を担っている方を中心とした教員陣から先端的な知識・技能を持った教員が担われている。
- 「職員の能力開発のための研修等が行われているか」
 - ・早稲田大学の組織として適切な研修がなされている。

(4) 学修効果

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
就職率の向上が図られているか	3.7
資格取得率の向上が図られているか	3.3
退学率の低減が図られているか	3.3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「就職率の向上が図られているか」

- ・学校の教育方針から就職率向上は主目的ではないと感じるが、学生の要望には対応できる体制であってほしい。

●「資格取得率の向上が図られているか」

- ・資格取得は学生自身の能力によるところが大きく、学校側は十分に貢献している。
- ・卒業後の資格取得の状況を把握できているか？
- ・学校の教育方針から資格取得率向上は主目的ではないと感じるが、学生の要望には対応できる体制であってほしい。

●「退学率の低減が図られているか」

- ・入学時点での退学確率等の検討が期待される。
- ・学生の個人情報の取得が難しいこともあるが経済的、時間的な制約がある。
- ・夜間という制約から学生生活の継続が難しいこともあると思うが、学生に寄り添うきめ細かい対応がなされている。
- ・退学者の分析を行い、退学防止策の検討を進めるべきである。

●「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

- ・学生の活躍にかかる広報の拡充が期待される。
- ・稲門会・稲芽会を活用し情報収集・交換を積極的におこなうとよい。
- ・学習効果については、様々な媒体を通して発信を行っていく必要があるが、芸術学校からの発信が見えにくい印象を持った。この点について、改善に向けて努力・配慮すべきである。

(5) 学生支援

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4.0
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
卒業生への支援体制はあるか	3.7
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4.0
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	3.3

■委員からの評価・意見

- 「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」
 - ・相談要望がある学生にはきめ細かく対応できている。
- 「学生相談に関する体制は整備されているか」
 - ・相談内容の上位は何か？
- 「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」
 - ・世間には、民間の奨学金もかなり存在する。学生がこうした奨学金の存在についてどの程度把握しているか、状況把握を行う必要がある。
- 「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」
 - ・精神疾患への対応は十分行われているか？
- 「卒業生への支援体制はあるか」
 - ・稲門会・稲芽会を活用し情報提供・支援を積極的におこなってほしい。
- 「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」

- 「大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか」

- ・大学院との連携などのニーズに合った対応ができています。

- 「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか」

- ・就労社会人向けの学位取得プログラムとして人間科学部eスクールのダブルスクール等の検討が期待される。

- ・ニーズの把握とリモート及びオンデマンド授業等の検討が期待される。

- ・夜間開講であることを活用し、0B・0Gに向けた年1回の授業（オープン講座など）があればよいのではないかと考えている。

（6）教育環境

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.7
防災に対する体制は整備されているか	3.7

■委員からの評価・意見

- 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」

- 「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備

- ・卒業生や教員と学生がうまく繋がれる仕組みがあればよい。

- ・卒業生が設立した事務所でのオープンデスクやインターンを行うなど、在学生や教員が卒業生と繋がる仕組みがあれば良いと考えている。

- 「防災に対する体制は整備されているか」

- ・施設整備は行われていると思うが、防災訓練は実施されているか？

(7) 学生の受入れ募集

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.2

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	2.7
学生募集活動は、適正に行われているか	3.3
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	2.7
学生納付金は妥当なものとなっているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか」

- ・内外で学校にかかる情報提供が不足していることから、教員の実績並びに学生の実績にかかる広報拡充が期待される。
- ・学内の認知度が低いと感じている。学内周知についても積極的に行うべきではないか。
- ・ダブルスクールや社会人への情報提供と連携し、過不足のない取組ができればよい。

●「学生募集活動は、適正に行われているか」

- ・取組みの成果が出ている。
- ・早い時期からオープンキャンパスや公開授業をしており適正に行われている。
- ・様々な媒体による発信方法を検討すべきである。
- ・社会人向けの広報にも注力してはどうか。

●「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」

- ・進路報告アンケートの回収率は向上しているが、資格取得の把握をより一層行ってほしい。
- ・卒業後の状況となるので情報収集が難しいと思うが対応できるよう望む。

●「学生納付金は妥当なものとなっているか」

(8) 法令等の遵守

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
自己評価結果を公開しているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」
- 「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」
- 「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」
- 「自己評価結果を公開しているか」

(9) 社会貢献・地域貢献

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」

- ・建築士資格を有する卒業生の輩出が最も重要な貢献であり、余力をもって貢献するのが望ましい。
- ・理工展・建築講演会・学生作品展などを通じて外部・地域への貢献ができている。

●「地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか」

- ・公開レクチャーの頻度は適性か？
- ・理工展・建築講演会・学生作品展などを通じて外部・地域への貢献ができている。
- ・地域密着型の活動が結果的に社会人への周知につながる可能性がある。

◆ 総 評

- ・引き続き広報活動の拡充が期待される。
- ・メディア等も利用しながら存在価値にかかる広い周知が今後の課題としてあげられる。
- ・受験者数や入学者数が増加しているのは、今までの対応の成果として評価できる。2024年度の定員充足率は建築科(2年制)の123%に比して建築都市設計科(3年制)は54%である。3年制の充足率の要因を分析する必要があると思われる。文理融合型のカリキュラムによる建築家育成のプログラムは他の専門学校とは一線を画するユニークな教育機関であり、高く評価できる。この特長を社会に対してどのように発信していくかが今後の課題ではなかろうか。卒業生達の活躍や活動が見えるように、より一層の発信を期待する。
- ・自己評価報告書の中に4-(10)「コロナ禍への対応」の報告がなかったのは、収束したとの判断か？
- ・昨今の学び直し・リスキリングに合致した学校運営を長く続けてきた中で、そういったノウハウや知見を学外に向かって積極的にアピールし、学校を認知してもらえるような取り組み方もあるのではないか。
- ・先日の同窓会に参加してくれた在校生も「この学校で学べることで大変だがとても充実している」と言っていた。早稲田の中の小規模な組織として苦労も多いと思うが、今後とも社会情勢を取り込みつつ独自のスタンスのユニークな存在の学校として、意欲ある学生へ学べる環境を提供できるよう応援している。
- ・3年制の入学者が伸び悩んでいるので、3年次編入への動機づけ等の取り組みが期待される。
- ・入学センターの有する枠組み活用して、もっと「大学として」アピールしてもらおう仕組みを構築してはどうか。